



2012年4月2日

株式会社スカパーJSAT ホールディングス  
スカパーJSAT 株式会社

### 2012年度 社長訓示 (要旨)

本日、株式会社スカパーJSAT ホールディングス代表取締役社長及びスカパーJSAT 株式会社代表取締役 執行役員社長 高田真治は、新年度にあたり以下のとおり社内に訓示をいたしましたので、その要旨をお知らせします。

年度の始まりは、前の年の数字をリセットし、新たな目標に向けてのスタートの時期です。

早期に中期経営計画を達成するとともに、更なる成長に向かって積極果敢に攻めていくために、今年度、我が社が成し遂げなければならないテーマと方向性について述べたいと思います。

有料多チャンネル事業においては、将来にわたり加入者を増やし成長を続けるためには、さまざまな施策が考えられますが、最終的には競合サービスと比べてコンテンツがいかにか比較優位にあるのか、お客様の心に響くサービスがあるのかが、加入をご継続いただくポイントになります。昨年来、有料多チャンネル事業部門において、経験則や先入観を排して、これまで我々のサービスに加入いただけていないお客様の目線で分析し、TVが売れなくなる「ポスト地デジ化」においてはこれまでのサービス体系やコミュニケーションのやり方では成長できなくなるという強い危機意識に基づいて改革の検討をしてきました。さまざまな歴史や経緯、伝送路の変化などに伴って作られてきたスカパー！のサービス体系を、現在そして将来の「お客様の目線で再構築」し、「コミュニケーションの手法も抜本的に見直してシンプル化」することが不可欠との結論に至りました。コストについても、我々の本来のサービス価値である「コンテンツ強化・差別化」に大きく投下することで、大幅な新規のお客様の獲得増とお客様との結びつきの強化につなげようと考えています。このように今年度は昨年発表した中期計画を必達するだけでなく、その先の成長を確実にを行うための大きな改革を行ってまいります。

一方の宇宙・衛星事業においては、昨年度と比較すると衛星需要の活発化は落ち着きを見せることは甘受せざるを得ませんが、地上系より優れた、衛星の強みを発揮できるBCP利用や新規事業の拡大でリカバーしなければなりません。また、官公庁案件を含め、「相乗り」衛星ミッションの開発へ向けての技術面・事業面の課題を克服して将来の成長への基礎をつくっていく年でもあります。JCSAT-13号機の打ち上げが、5月16日（日本時間）に予定されています。これは、東経124度でスカパー！サービスに使っている衛星の後継機であります。東南アジア向けビームも搭載しています。他の衛星に先駆けて同地域に向けてサービスインすることからすでに強い引き合いがきています。グローバルでみると衛星事業は高い成長が予測されており、今後は海外勢といかにアライアンスを組むかということが極めて重要になってきます。巡ってきたチャンスはきっちりモノにしなければなりません。効率よくカロリーの高いフリート体制を作り上げるためのリサーチと機動的に対応できる戦略を常にブラッシュアップしておくことが必要です。

また、アジアにおける衛星多チャンネルニーズが高まる中で、国内の放送事業者さんなどとともにジャパンコンテンツの海外ビジネス展開の一翼を担っていくことも検討の緒についています。

アジアへの展開は、宇宙・衛星事業、有料多チャンネル事業の共通のテーマとして取り組んでいきます。

足元の成果もきっちり上げて行きながら、その先の将来の成長への基礎を築いていく年でもあるということ改めて認識をいただいて、日々の業務にあたってください。

以上